

◇身近な情報をお寄せください



「水戸で建設可能」

「次世代型」
専門家指摘

路面電車導入探る

市民ら勉強会

LRT(次世代型路面電車)敷設による、人と環境にやさしい水戸のまちづくりを考える初めての勉強会が21日、水戸市中央の市民会館で行われた。市民のほか国会議員、県議、市議ら約100人が参加し、関心の高さをうかがわれた。

勉強会では、LRT ①どうするか②水戸での研究の第一人者で日本銀行勤務の宇都宮浄人氏が③なぜ今LRTに

よるまちづくりなのか④LRTのメリット⑤バスとの共存⑥財源を

「水戸でのLRT建設は可能」と説明する宇都宮浄人氏(右)＝水戸市民会館

⑦LRTの可能性⑧LRTについて説明。

まちづくりにおいてLRTは商店街の「ランドマーク」となれること、乗りやすく高齢者をまちに連れ出す

「装置」となっていざわいを取り戻せることなどを指摘。さらに海外ではLRT開通で逆

にバスの乗降客が増えた例があること、建設費はキロ10～20億円で国交省の補助制度があることなどを述べた。

その上で宇都宮氏は水戸について「LRTでつなぐことで商店街や芸術館、借菜園などの潜在的な魅力を引き

出せる。バスを含めた公共交通全体で採算は取れる」と、可能だという考えを示した。

(藤崎和則)